

た運動體育の材料中に始めて明示されたのである。

遊戯

甲、競争を主とする遊戯。

一、鬼遊び

二、徒歩競走

三、旗取競走

四、遊送競走

五、戴囊競走

六、片脚競走

七、單脚競走

八、二人三脚競走

九、輪廻はし競走

十、俵運び競走

十一、障礙物競走

十二、ボール送り

十三、豆囊抛

十四、ボール抛

十五、センターボール、キャプテンボール

十六、球入

十七、打球

十八、バスケットボール

十九、ボール抛

二十、デットボール

二十一、對列フットボール

二十二、フットボール

二十三、帽子取競争

二十四、棒押

二十五、棒引

二六、綱引。

乙、發表的動作を主とする遊戯。

一、桃太郎

一、池の鯉

三、渦卷

三、大和男子

丙、行進を主とする遊戯。

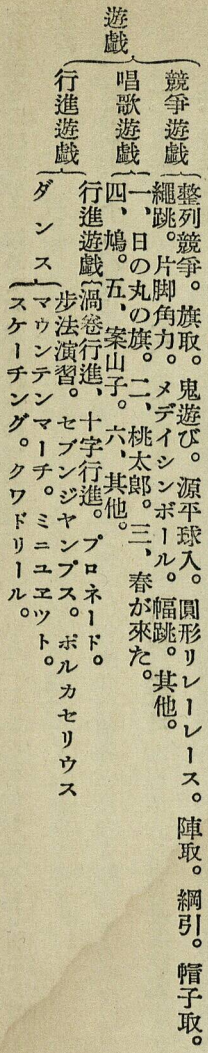


- 一、十字行進
- 二、踵趾行進
- 三、スケーティング
- 四、カレドニア

五、クワドリール。

以上の分類は三つの項目に區分した總括的な分類であつて、競争を主とする、發表的動作を主とする、行進を主とするといふやうに材料に對する、性質の大綱を示して類別したにすぎぬのであつて只主とする性質を明示し考究する方針を立てたのである。

大正十五年に學校體操教授要目が改正され遊戯の價値は一層高唱されしかも重要視すべく認められたれども、その本質的内容に立ち至つた程度までに研究も進まず具體的事實を表しては改正し得なかつたのである。只前教授要目に對する材料の整頓整理を主とし材料の選擇の方針を示したに過ぎなかつたのである。その分類に就いても左の三つの項目に類別し材料の吟味をしたのである。



この三系統は、それ／＼整頓、整理されたのであつて、競争遊戯は競技材料との關係聯絡の點から考へても、材料の内容から考へて見ても、發達の程度に應じ得る材料を精選されたのであるが、その本質的な分類に至つては將來考究を要すべきものであると信するのである。

『競争遊戯』は前にも述べたやうに、遊戯の中で最も運動價値の多い材料であつて而かも諸徳性の涵養も人間的な訓練も出來得るのであるが、稍もすると競技運動とその性能、道程を同じうするがためこの教育の本旨を等閑に附せられ特殊材料の如く取扱はれ學校教育に適用を誤られるのである。

今後學校教育の材料として考究と發達を遂げせしめねばならぬ材料で、むしろ競技の健全な發達を計りその指導の根本はこの材料の普遍的實施に依つて教養さるゝものである。教技はこの材料が特に發達進歩し、體力氣力の優秀なることを競ふために、一定の方則を遵守勵行せしめて行ふて始めて競技運動となるのである。競争遊戯はその本質を考ふるときは廣汎なる材料から選ぶ事が出來るのであつて指導實施の方針から材料そのものに價値づけらるるものである。

競技運動の普遍的實施を計る上からも、最も優秀なる身心の精練されたる選手を養成する點から考へても、遊戯そのものゝ眞味を味はせる點から考へても、精選された材料を實施勵行せしめその發達をとげしむることが最も重要な事である。

「唱歌遊戯」は、その材料の性質より見て、又我國に於ける發達の狀態から見て、甚だ混亂の狀態にある材料である。動作遊戯。表情遊戯。律動遊戯。表出遊戯。童謡遊戯等其の言語の如く特殊研究者の發表そのまゝとなつて取り殘され考究を別問題におかれ、これ等の材料が身體的教育價值あるものであるか。また精神的、心理的に價值あるものであるか、それとも、他に目的を有する材料であるかが明かでない、尙身體教育以外に目的を立て人としての教育上重要な材料の如くに考へ、研究の範圍が頗る廣汎で、しかも體操科以外の材料とならむとしてゐるのである。學校教授要目は此點からこの種の材料に對する研究の方向、教育目的の確立から考へて、遊戯材料の一分類として進むべき方向を明かにしたのであつて、至つて限られた範圍内の材料として考へられてゐるのである。「唱歌と遊戯」「唱歌の遊戯」といふ意味であつて、快活なる氣分、愉快な心持ち、活動觀念の誘導、をなすもので、身體及び精神の教育以外に何等の目的を持たないのである。

遊戯は「善く唱ひ」「善く遊び戯るる」幼稚なる兒童に對しての材料で、自由なる意志、自然的な活動性を満足せしめんとすることにあるのであつて、身體的教育を主體として考ふるところの材料である。子供らしい運動、自然な活動、をそのまま卒直に表し教育的に誘導するところに生命を見出すのであつてこれが眞の唱歌遊戯である。

「行進遊戯」は、學校教育の材料としても又その内容的な考究についても甚だ疑問の點が多いのであつて修練價值そのものについても誤られてゐると斷定を下す方が正しい考へのやうに考へられるのである。

先づ學校にて用ふる言葉の「ダンス」が二様に用ひられてゐる。一は「體育ダンス」一は「學校ダンス」といふやうな意味で使はれてゐるのであるが、何れが眞意であつてしかも正しいかと言ふことは、容易に決定し難いのである。

體育ダンスは、他の審美的ダンス、演劇ダンス、社交的ダンス、等と區分をするために使はれてゐるのであるが、現在學校教育に行はれてゐる材料は種々なる材料が包擁され、殆んど混同してゐる。内容的には區分が出来ないのである。審美的なダンス。社交的ダンスや演劇的ダンス等の材料の一部もしくは全部が學校教育の材料として採擇せられ混同されてゐて女子の教養にあたつてゐるのであつて、これらは皆體育的なダンスとして包括されてゐるのである。

『學校ダンス』といふ名稱は、「學校にて行ふところのダンス」といふ意味から分類の名稱として用ひられてゐるのであるが、これもあまりに範圍を限り行ふ場所に依つてダンスの分類となすといふことは適當でないのである。學校で行ふところのダンスには、種々の系統があるのであつて、總括的の名稱に

すぎぬ、身體の教育として完全を期するためには、むしろ種々系統の異なる材料が包括されるべきものであつて、學校で行ふところの「ダンス」は必ずしもヂムナスチックダンスでなければならぬといふことはない。又行進遊戯等の名稱などにとらゐらるべきものでもない、行進遊戯はさきに文部省が指示した様にダンスを表示する分類の名稱ではないといふ事は明かな事實であつて、行進遊戯とダンスとは自ら性質、分類が異なるもので豫め承知の事實でむしろ責任ある者に對して多大の同情をすると共に我國の體育としてダンス材料を發達せしむる上に感謝せねばならぬ事實である。

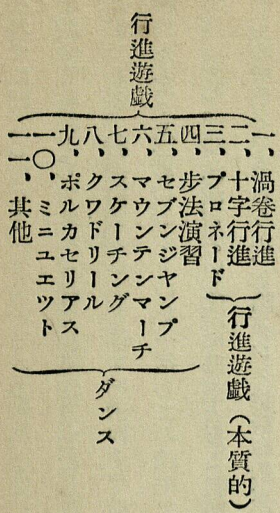
學校教育に採用するダンスの材料に就いては、材料の種類、が及びこれが分類等に就いて選擇も考察もして身體教育としての立場より目的の確立と共に考究を要すべきである。

元來「ダンス」の材料の發達は、身體運動の價値を認めて發達したのでなく、劇的のものであつて、藝術そのものであると考へ、美に對する賞讃であり。美に對する體驗であり。美的情操の陶冶をなすものであつて、むしろ客觀的なものであると共に、美に對する主觀の立場にあるところの身體的活動であつて、身體修練の價値そのものとは大に隔りがあるのである。

然しその後ダンスを體育的に考へ、教育的に眺めて身體修練の價値を認め、演劇的ダンス材料や、社交的のダンス材料のものゝ中から學校教育に適當と認むることの出来るやうな材料を採擇して教育的

なダンスとして取り入れられたるものであるやうに考へられる。現在に於ける體育ダンスと稱する材料は即ち此種の材料に外ならぬのである。又アスリテックダンス。ジムナスティックダンスなどは發達の形式が異なるもので、早くから競技、體操の材料と同じく體育材料として認められてゐたものである。ダンスの材料の發達に對しては、種々なる方面から觀察が出來得るのであるが、將來我國の學校教育の材料として健全なる發達をとげしむるためには特殊な、しかも専門的研究を要するのであつて、我國將來の體育材料として考ふるときには眞に徹底したる研究者を切實に望むのである。

文部省の示すところの「ダンス」の分類は左表の様であるが、



となつてゐるのであるが、學的研究の立場より考ふときには此の行進遊戯の名稱も又材料も科學

的に闡明せねばならぬ事で、行進遊戯の名稱のもとにある、ダンス材料等も又その分類の方法も更に明示せねばならぬことが澤山あるので材料の性質上各種目の内容も探究せねばならぬのである。最早學校教育材料として考へられて以來四五十年の月日を過したとするならば、本質的に論究せねばならぬ點である。行進遊戯といふ名稱も明治四十年前後に表れた字句であつて、包括さるゝ材料もダンス材料としても認めらるゝものを一括しての總稱である。歩法演習といふ語も、其内容も誤られ易い點が仲々多い。歩法演習といふ語は基本となる姿勢や動作を指示するのであるが、特殊な歩法を指示するのであるであらうか、勿論ダンス材料の基本の練習には相違ないのであるが、基本練習であるならば、基本となる歩法が明かに示されなければならぬ。従つて「基本歩法練習」として、基本姿勢と基本動作とが明示することが重要な様に考へられるのである。

次にダンス材料内容に就いてであるが、將來この材料の發達を遂げしむるためには、現在の材料のやうな歴史的な古典的な材料のみに依る事が、體育的に健全なる發達を遂げることが出來得るであらうかと考ふるときは、種々なる議論があることであると信ずる。益々専門的な研究を遂げ眞に確立したる理想に向ひ健全なる發達をとげしめねばならぬことを要望するのである。



第三節 遊戯の各系統に於ける

目的及び材料

第一項 競争遊戯

一、目的

競争遊戯は簡單容易な規則に依つて、個人的に、或は團體的に相争ひ競争心を旺盛ならしむると共に身體の健全なる發達、發育を助成し動作を機敏にし、意氣を盛ならしめ快活なる精神を養ふと共に品性を陶冶し特に團體的の運動にありては、協同一致の良習慣を養成する。

二、指導上の着眼點

- (一) 發達の程度に應じ適用を過らぬこと。
- (二) 競争心の誘導にのみ偏せず規則の適用は材料の練習發達の程度に應ずるやう。
- (三) 常に社會の實生活と結合し、個人の完成を期すと共に社會生存の本義を知らしむるやう。
- (四) 常に道德的生活と品性の陶冶に努むること。



(五) 個性を尊重し、活動の満足を得せしむるやう。

(六) 常に創造的活動を促すことに努め、官僚的劃一的の弊に陥らぬこと。

(七) 幼學年にありてはよく遊ぶことと、規則を守る習慣を養ふことに努めて學年の進むに従ひ、
遵法を精神を涵養せしむ。

(八) 團體的指導を全くすると共に個人の指導を忘れざるやう努むること。

三、競争遊戲材料

一、整列競争 (其一)

方法

一組を六十人とすれば二十七人と三十三人と二組に分ち、二十七人の組を圓形とし、三十三人の組を縦列とし五六間隔て、整列せしめる。「始め」の合圖と共に圓形生は連手して唱歌を歌ひつゝ廻旋し、縦列生も亦唱歌しつゝ行進をなす。教師は適當の時を見計ひて「止れ」の合圖をする。此の時圓形生は連手を解いて直ちに氣を付けの姿勢をとると同時に、縦列生は解散して早く圓形生の前に生つて重複する。而して皆重複する時に六人の重複し得ない者が出来る。斯様にして圓形生と縦列生と交代しつゝ何回も繰り返へす。

注意

イ、學年によつて圓列と縦列との距離を斟酌する必要があるけれども、餘り接近させることは良くなく。

ロ、一回目に重り得なかつた者は再び縦列生に入れる。

(其二)

方法

二列縦隊をして前に準はしめ、その整列、整頓の善惡を競争させるのである。即ち「集れ」「前へ準備」の號令に依つて教師の前面に各列の先頭の者は姿勢をとり、二番目以下の兒童は兩臂を前舉して眞直に整頓する。「直れ」の號令を下してからは少しも動けないものとする。而して其の整頓の巧妙に出來た組が勝となる。

注意

イ、教師の前面に整頓させる外、樹木其の他の目標を選びて別々に整列させてもよい。

ロ、稍熟練すれば「前へ準備」の號令がなくとも、「集れ」の合圖によつて集合し、臂を前舉し整頓し、順次に前方より手を下して姿勢をとらしてもよい。



二、旗取

用具

旗を児童數生徒數だけ。

準備

出發線兼決勝線を描き、二、三十米隔てゝこれと併行に一線を引き其の上に旗を樹てる。

方法

児童を適當に區分し、出發線上に整列せしゆ、出發の合圖によりて發走し、旗一本取つて早く元の出發線決勝線に歸つた者を勝とする。

注意

イ、走力の等しい様な者を一團として行はせるがよい。

ロ、旗の數を児童數と一致せしめたのは、一組の競争を行つた後、他の組を行ふ場合に旗を樹つるに多くの時間を費す故、直ちに實行出来る様にしたのである。

ハ、旗は樹てる代りに置いてもよい。又棒のある旗で往々他の児童に危険を及ぼす事もあるから繩を張りて是れに布だけ掛けて置いてもよい。



二、旗の代りに毬けば毬拾ひとなり、啞鈴を置けば啞鈴拾ひ競争と變化する。

三、鬼遊び

(其一) カラカヒ鬼

準備

二回の同心圓(内圓直徑五米・外圓七米位)を兒童數に應じて適當に描く。

方法

一人を鬼として内圓圓に入れ、他の兒童を外圓に置く。外圓に居るものは鬼の隙を見て拍手し、内圓の外から又は中に入つて鬼をカラカヒ、鬼は内圓より出でず之を捕へる事に努力する。捕へらるれば鬼と交代する。

注意

イ、捕へられた者が交代する代りに鬼を殖して行つてもよい。

ロ、からかふ時に野卑な言葉は用ひぬやう。

ホ、場所は圓を用ふる代りに種々の圖を造つて行ふことが出来る。

(其二) 子殖し鬼

用具

赤襷。

方法

一人を鬼として赤襷を掛けしめて他の児童を追ひ、捕へられた者は赤襷を掛け、斯くてし子を殖して行く遊戯である。又捕へられた者は人數を三——四人位に決めて連手せしめてもよい。

注意

イ、遊戯場を制限する方がよい。殊に冬季に行ふ場合は狭くする方がよい。

(其三) 圓陣鬼

方法

一人を鬼として一人を逃げ手とする。他は二列又は一列の圓陣となり。逃げる者は任意の場所に列中の者の前に重なる。重なつた後の者が代つて逃げる。鬼は捕へん事に努力し、捕へらるれば鬼となる。

注意

イ、逃げる者は前方に重なるのみならず、左或は右に入つてもよい。



口、逃げ手は必ず圓陣の外側を逃げねばならぬ。間違へると鬼となる。

ハ、鬼は何所から追つてもよい。

(其四) 巴鬼鬼

準備

人員を紅・白・青の三組に分つ。

方法

紅は白に白は青に青は紅に勝つものとする。始めの合圖で各自互に劣者を追ひて捕へる。事に努力する捕へられた者は一定の場所に居る。

注意

イ、全體を二組に分ち、各組を三色に区分し、團體遊戲となせば一層興味あるものとなる。

ロ、團體遊戲となせる場合には各組に本陣を設け、旗を樹て、敵に捕へられずに相手力の旗を奪

ふ様にし、奪はれたる組を負けとすることもよい。

ハ、紅は白に勝つけれども、若し白が二人連手して來たときには白が勝つ。以下凡べてこれと同

様にして行はせてもよい。

四、源平球入

用具

長柄のバスケット (Basket) 二個、紅白のボール兒童數の約二倍、全兒童を紅白の二組に分ち、一直線上に各組ともボール二個宛持つて一列横隊に整列させる、各組の前方約二十米の處にバスケットを樹てる。

方法

「始め」の合圖で各組自分の方のバスケットに近寄りて投げ入れる。一定時間の後「止め」の合圖で投げ入れを中止して元の整列線に整列する。而して多く投げ入れた方を勝とする。

注意

- イ、球は布製がよい。
- ロ、バスケットは約十米隔てゝ樹てる、其の高さは學年と練習程度によつて加減するがよい。
- ハ、勝敗の決定せる後は全兒童に各組色の球を捨はせる。
- ニ、球は始めから籠の周圍に撒いて置いてもよい。
- ホ、籠も一個で行つてもよい。即ち白組(紅)は白(紅)のボールを拾つて投げ入れるやうにす



る。

へ、「止め」の合圖は嚴重に守らせるがよし。

五、圓形リレーレース (Circle Relayrace)

用具

バトン (Baton) 二本又は布及び小旗二本。

準備

全兒童を紅白の二組に分ける。豫め設けたる圓上に手を繋いで圓陣を作り、手を下ろして整列し先頭はバトンを持ち出發の用意をする。

方法

「始め」の合圖によつて、先頭は右方から圓陣を一周し、二番生にバトンを渡し、以下順次に圓を廻りて全部が早く終つた組を勝とする。

注意

- イ、渡し終つた者は自分の位置に歸る。
- ロ、秩序を維持するために兒童・生徒を坐らしめ。次の走者だけ立たせて置くのも初歩の兒童に



はよい。

ハ、バトンを落した時は必ず本人が拾つて渡す。

ニ、圓は餘り達さけて描かぬやう圓の直径は十米から十五米がよい。

ホ、進むに従ひて陸上競技規則に導くやう。

ヘ、學年に應じて適當の橢圓形の走圈を作り各組より一人宛走者を出し、各自の分擔を走り次の者にバトンを渡して最後のものを早く決勝線に入らして勝負してもよい。

六、置換競争

用具

ポテト (Potato) 十二個又は球。棍棒。ビール (Beer) 壘等。

準備

組數は二——四組が適當である。各組を出發線の後方に一列に整頓せしめる。

方法

「始め」の合圖で、一番生は半圓内のポテト一個を次圓に移し、歸つて更に一個を次圓に、残りの一個を次圓に移し、早く決勝線に入つた者を勝とする。二番生は「始め」の合圖で第二圖のポ

テトーを第一圓に、移し次に第三圓のものを第一圓に最後に第四圓内のものを第五圓に移し終れば勝となる。

注意

イ、ポテトーを移す時に圓外に出したり、倒したりした時には直ちに元に復するやう。然らざれば無効とする。

ロ、以上は個人競争としての取扱であるが、先頭生に旗又はバトンを渡し、一個或は全部を移し終つた時二番生にバトンを渡す。以下順次に競争して最後の者が移し終つて決勝線に歸つた組を勝とすれば團體競争となる。

七、陣取

用具

純白の帽子又は襷。

準備

運動の兩隅に紅陣と白陣とを設けて白線で圓を描き全兒童、生徒を紅白の二組に分けて各陣につかせる。



方法

合圖によりて相手方の陣屋に突入することに努力する。而して自分より先に陣屋から出たものを追ひかけて捕虜とすることが出来る。自分より後から來た者が出た時には逃げなければならぬ。手を觸れられた者は捕虜となり、敵の捕虜收容所（陣屋）に入つて味方の救を求め、捕虜二三人になれば連手して救助を求め、味方の者は機を見て敵陣に近づき、捕虜に手を觸れて全部を救ひて味方に引き上げる。勝負は一人が無事に敵陣内に駆け込むか捕虜の人数によつて決める。

注意

イ、捕虜收容所は陣屋より二三歩離して設けてもよい。

ロ、兩陣屋の間を餘り離すと陣屋を出た時に何れが早いか遅いか判定が困難になる。初歩の内は二十米位がよい。

ハ、捕虜は交換的に歸してもよい。

八、綱引

用具

太綱一本。